

# 線路近接工事の範囲

線路近接工事として取り扱う範囲には2つの区域があります。  
 どちらの区域においても、工事を実施する際は事前に近接協議が必要となります。

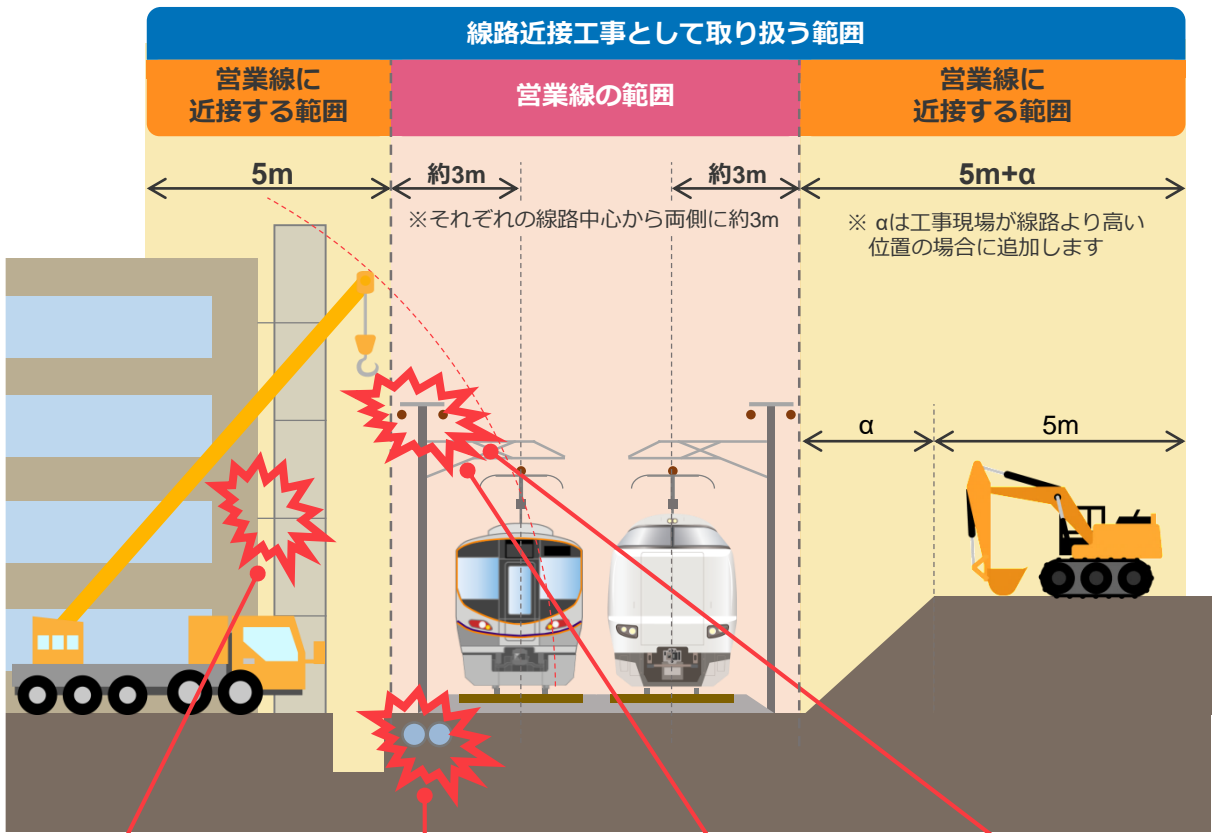
## 線路近接工事として取り扱う範囲

### 営業線の範囲

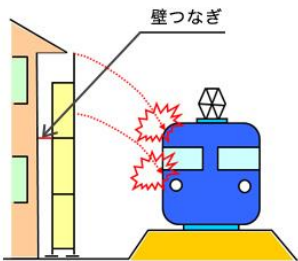
列車運行への影響が大きい範囲となります。列車が運行しない時間帯(深夜)の工事や、鉄道工事に精通した技術者の配置が必要となる場合があります。

### 営業線に近接する範囲

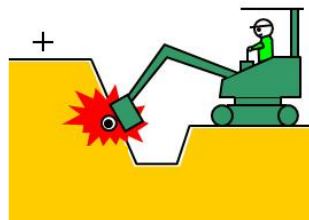
工事中の事故が生じた場合、列車運行に影響を与える範囲となります。工事施工中の安全対策について、検討が必要となる場合があります。  
 ※重機の転倒範囲に線路が含まれる場合は、区域外であっても対象となります。



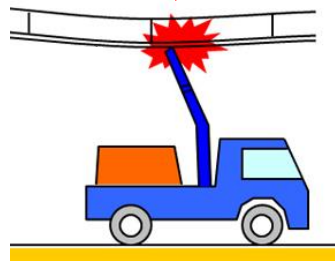
事事故例以外にもこんな危険が・・・



仮設足場等が線路上に倒壊し、走行している列車と接触すれば、大きな事故につながる恐れがあります。



線路沿いでの掘削作業において地中に埋まっているケーブルを損傷すると、列車運行に影響が生じます。



最大25,000Vの電気が流れており、ブームなどが電線に近づくだけで感電する可能性があります。



足場が離れていても組立てなどの作業により、単管が電気設備に近づくことで感電する可能性があります。